

13. 蜂巣炎における圧迫療法併用の有用性について

研究の概要と目的

下肢の皮膚細菌感染症「蜂巣炎」では、足から心臓に戻る血流がとどこおる「下肢静脈うっ滞」がリスク因子の1つであることが知られています。その重要な治療法の1つに包帯やサポーターで下肢を圧迫する「圧迫療法」があります。以前は蜂巣炎を起こしている時は圧迫療法を行っていませんでしたが、リンパの流れの滞りから細菌感染が血管に及ぶことや血流に問題があると局所の抵抗力が下がることが報告されており、むしろ細菌感染の悪化防止につながるのではないかと考えられます。そこで蜂巣炎における圧迫療法の有用性を検討するため、観察研究を計画しました。

研究の方法

本研究では、2011年4月から2016年3月末までの5年間、国立病院機構熊本医療センター皮膚科に皮膚細菌感染症の治療のため入院した方を対象としています。日常診療で得られた臨床データ（年齢、性別、最終診断名、既往歴、バイタルサイン、血液検査結果、画像検査結果、使用した抗菌薬、入院期間など）を電子カルテから集計します。

本研究の参加について

これにより患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究に扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。皆様の貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。本研究にご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございます際は、末尾の問い合わせ先までご連絡ください。

調査する内容

本研究は、新たに試料・情報を取得することではなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。研究対象者（患者さん）の個人情報（氏名、住所、電話番号、カルテ番号など）は記載せず、対応表を作成して管理しますので、個人情報は特定されません。

調査期間

2018年2月から2020年3月にかけて、カルテを調査します。

研究成果の発表

調査した患者さんのデータは、集団として分析し、学会や論文で発表します。また、個々の患者さんのデータを発表するときも、個人が特定されることはありません。

ん。

研究成果の発表

皮膚科 牧野公治

当院における研究責任者

皮膚科 牧野公治

問い合わせ先

皮膚科 牧野公治

TEL: 096-353-6501